草津市誕生を企てた昭和の「本陣」

6 町村による合併促進協議会

（昭和29年撮影・草津市蔵）

草津市は今年で市制 70 周年を迎えます。10 月 15 日は市制を施行したいわば草津市の誕生日。この市制施行を目指す話し合いは、現在の草津宿本陣でも行われていました。

そもそも草津市域の区画について、江戸時代まで遡ると 36 もの村に分かれていました。明治時代には地方制度の変化に伴い何度か区画が整理され、明治 22 年 4 月に現在の市域にかかる草津村、志津村、老上村、山田村、笠縫村、常盤村、治田村の七カ村がそれぞれ成立。同 28 年には草津村が町制を敷き、草津町となりました。

それから昭和 29 年（1954）までこの区画は変わりませんでした。それまでに合併の話は何度か持ち上がっているのですが、実現には至りませんでした。

さて、昭和 28 年に町村合併促進法が施行されると、翌 3 月には草津町、志津村、老上村、山田村、笠縫村の一町四カ村（人口 27,332 人）で新しく草津町を造成する案が立てられました。さらに話し合いを進めるうち、常盤村を加えると市になるための条件である人口 3 万人を超えるということで、町ではなく新市建設を目指すことになりました。ただこの新市の人口の規定が翌年 10 月の法改正で 5 万人以上に引き上げられることになっていたため、合併協議に参加していた新市建設派は、夜を徹して会合をしたり、自治庁との打ち合わせはすべて飛行機で往復するなど、可能な限り迅速な協議・手続きを行いました。先にも述べた通り市制施行は 10 月 15 日ですから、草津町造成の発案からわずか半年で、草津は市制施行にまで至ったのです。

写真は、当時の草津宿本陣です。昭和 29 年に撮影されたこの写真では、草津公民館として利用されていた本陣の表門の前に「志津村草津町老上村山田村笠縫村常盤村合併促進協議会々場」「手を取ろう境を取ろう隣村　合併でよりよき郷土をつくりましょう」と書いた看板が掲げられています。「本陣」は江戸時代には大名や役人など限られた人たちの休泊施設でしたが、元来戦(いくさ)の総大将がいるところを指していました。このときの草津宿本陣はまさに草津市誕生を目指す「本陣」としての役目を果たしていたと言えるでしょう。

（令和 6 年 9 月・草津宿本陣　川田 千紘）